

ユニチカ株式会社
2024年3月期
第2四半期
決算説明会
2023年 11月22日

2024年3月期 第2四半期 実績

- 》 食品包装用途の需要減と在庫調整の影響が継続。東南アジアにおいては、ナイロンフィルムの海外製品との競争激化により販売単価が下落。その他の用途についても、電気電子用途を始め、国内外の景況感悪化による需要低迷の影響を受け、販売数量が減少した。
- 》 販売減少に伴う減産と円安を主要因とするコストアップにより収益性が大幅に悪化。価格改定を実施したが収益悪化を補えず、営業赤字となった。
- 》 外貨建資産の評価益を中心に為替差益24億円を計上。これにより経常利益は黒字となったが、四半期純利益は赤字となった。

2024年3月期 通期業績予想

- 》 第2四半期の業績と、第3四半期以降の販売回復見込みを再検討し、業績予想を下方修正。
- 》 物価上昇などによる消費マインド冷え込みの影響を受け、食品包装フィルムの販売回復が当初予想よりも遅れることが見込まれる。その他の用途においても、引き続き景況感が停滞すると想定され、販売回復が遅れることが見込まれる。
- 》 売上高は1,200億円（前年同期比+21億円、前回予想比▲50億円）、営業利益は▲24億円（同▲37億円、▲37億円）、当期純利益は▲22億円（同▲23億円、▲23億円）を見込む。

売上高

580億円 (前年同四半期 591億円 / 前年同四半期比 ▲11億円)

電気電子用途、食品包装用途などの需要低迷が続き、前年同四半期比▲11億円 (▲1.8%) の減収。

営業利益

▲18億円 (前年同四半期 15億円 / 前年同四半期比 ▲33億円)

販売減に伴い生産量が減少。円安を主要因としたコストアップと合わせ、収益性が大幅に悪化。東南アジアでは販売価格下落の影響も受けた。価格改定を実施したが補えず、前年同四半期比▲33億円で赤字転落。

経常利益

1億円 (前年同四半期 39億円 / 前年同四半期比 ▲38億円)

期初対比での円安による外貨建資産の評価益を中心に、為替差益24億円を計上。

四半期
純利益

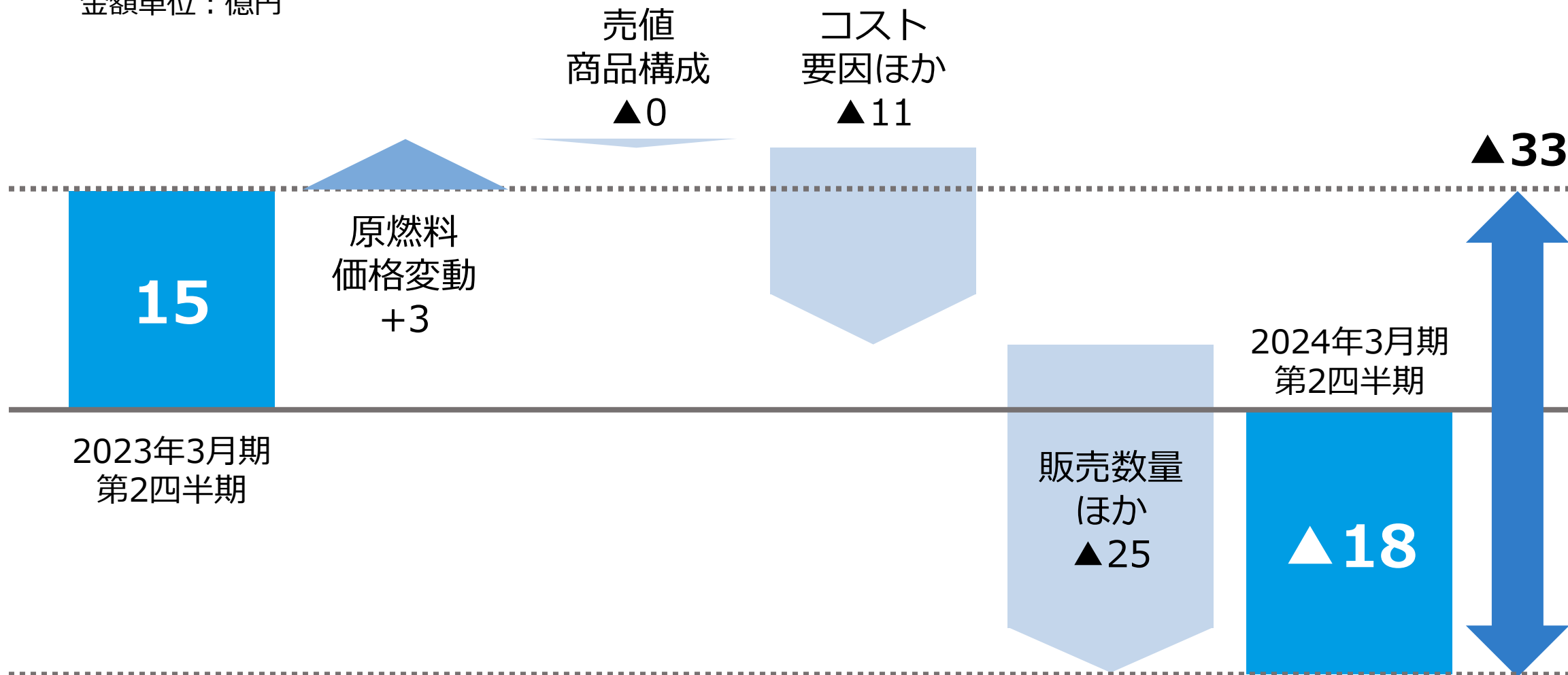
▲4億円 (前年同四半期 29億円 / 前年同四半期比 ▲33億円)

営業利益の減益が大きく、為替差益を計上したが当期赤字となった。前年同四半期比▲33億円の減益。

連結合計 (単位：億円)	2021年度 2Q実績	2022年度 2Q実績	2023年度 2Q実績	前々年 同四半期比	前年同四半期比
売上高	555	591	580	+25	▲11
売上総利益	141	128	89	▲52	▲39
営業利益	34	15	▲18	▲52	▲33
営業利益率	(6.1%)	(2.6%)	(▲3.1%)	—	—
経常利益	29	39	1	▲28	▲38
特別利益	7	0	0	▲6	+0
特別損失	9	5	3	▲6	▲2
四半期純利益	22	29	▲4	▲26	▲33
減価償却費*	22	21	27	+5	+5
設備投資*	36	38	34	▲2	▲4

* 減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

金額単位：億円



(金額単位：億円)	2023年 3月末	2023年 9月末	前期末比 増減
資産合計	1,900	1,926	+26
流動資産	748	753	+5
固定資産	1,152	1,173	+21
負債合計	1,461	1,497	+36
純資産合計	439	429	▲11
株主資本	390	383	▲7
その他の 包括利益累計額	31	29	▲2
非支配株主持分	18	17	▲1

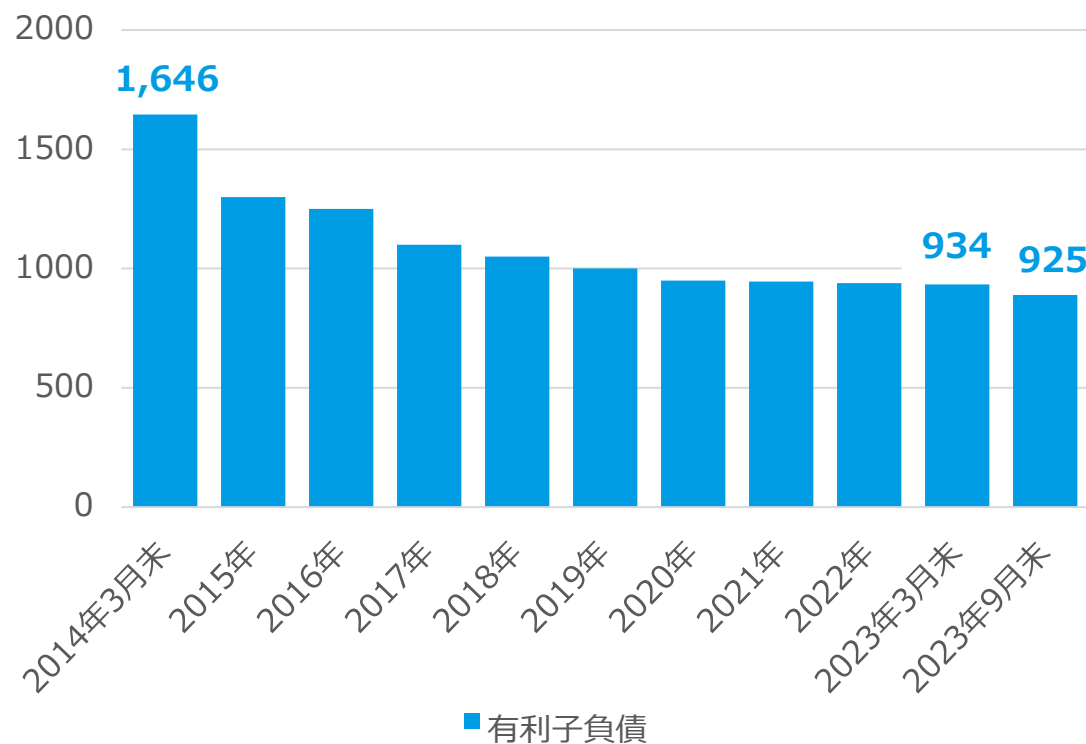
(金額単位： 億円)	2022年度 2Q実績	2023年度 2Q実績	前年同 四半期比 増減
営業活動CF	1	49	+49
投資活動CF	▲45	▲31	+14
財務活動CF	▲7	0	+7
(金額単位： 億円)	2023年 3月末	2023年 9月末	増減
現金・現金 同等物残高	96	117	+20

営業CFは主に棚卸資産の減少により、対前年同四半期で増加。投資CFは主に設備投資の減少により増加。これらにより、FCFが+18億円とプラスに転じた。

有利子負債の推移

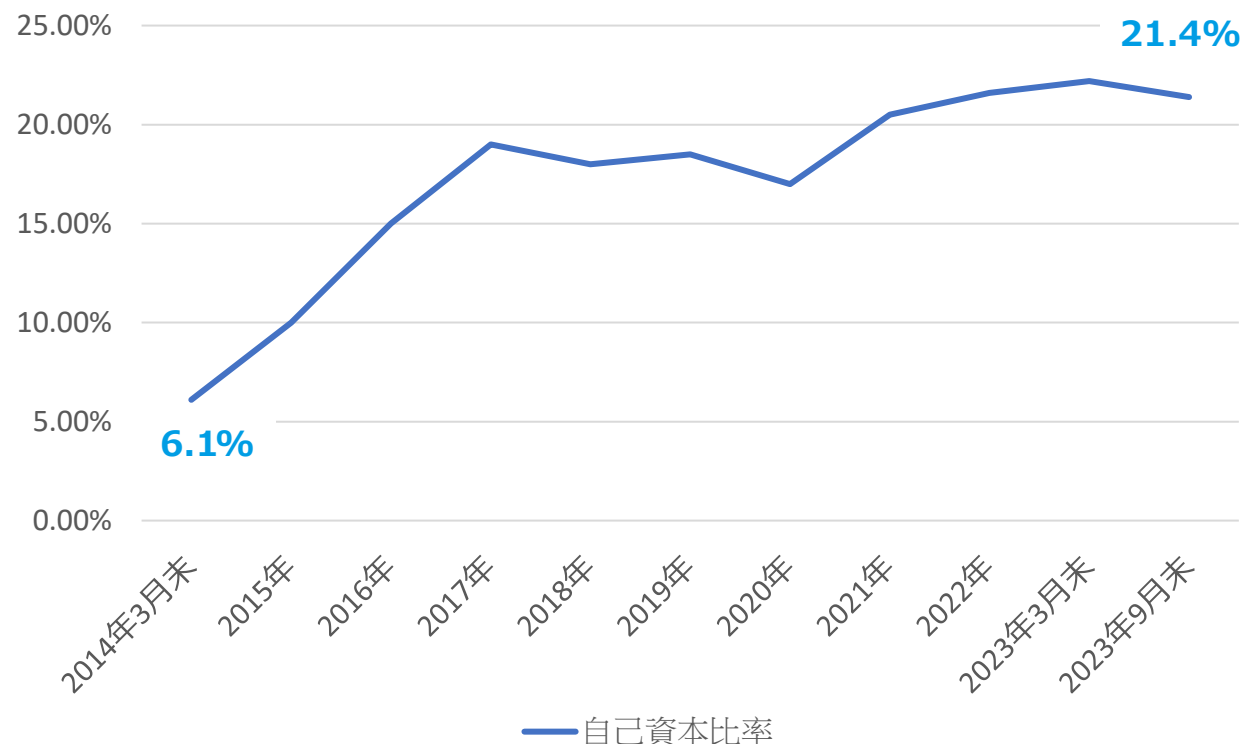
2023年9月末は925億円となり、前期末対比で削減は進んでいる。

現預金を差し引いたネット有利子負債は799億円



自己資本比率の推移

2023年9月末は2023年3月末と比較して0.8ポイント減少し、21.4%となった

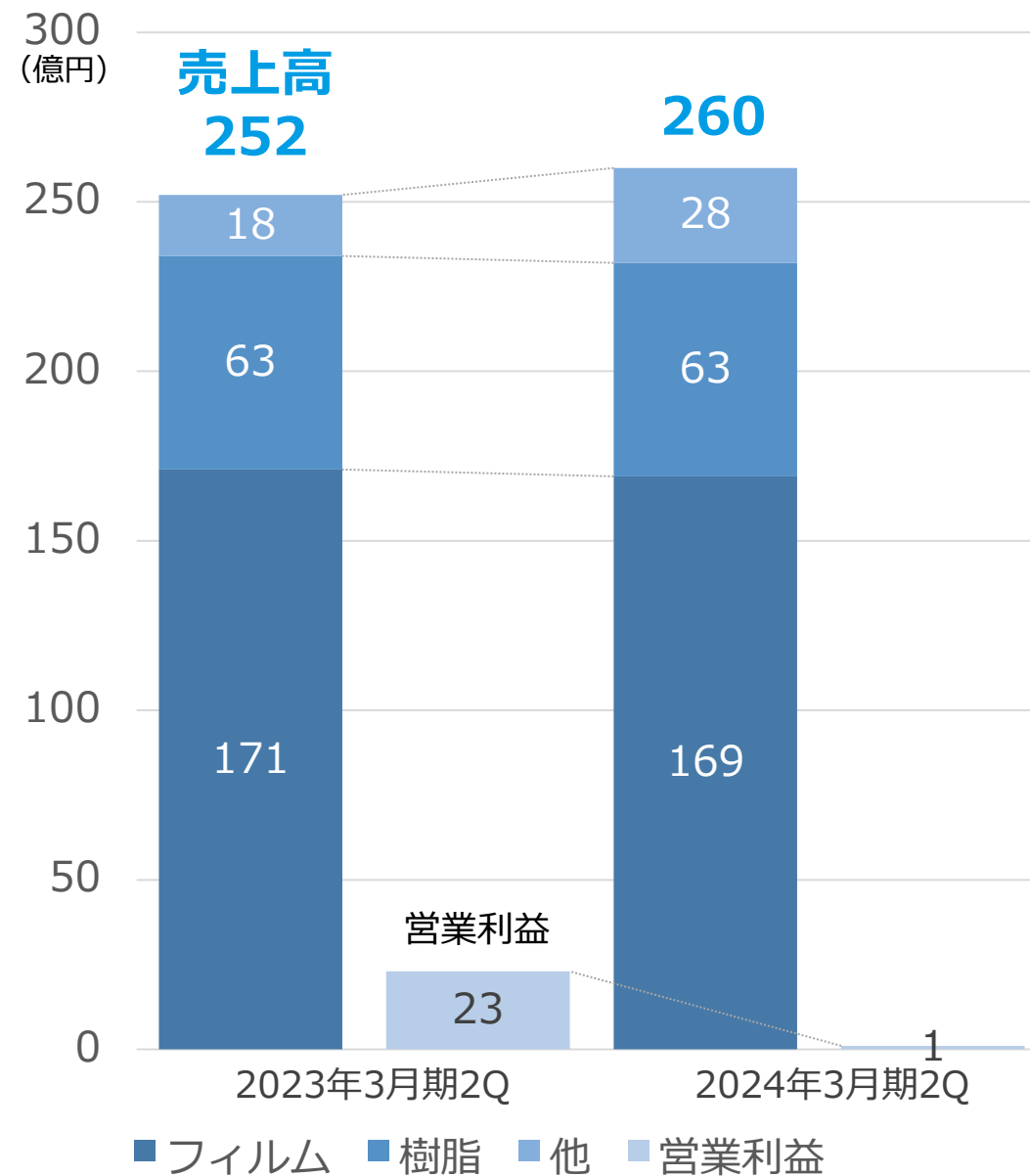


セグメント別 (金額単位：億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同四半期比増減	
			金額	率
売上高	591	580	▲11	▲1.8%
高分子事業	252	260	+8	+3.2%
機能資材事業	178	165	▲13	▲7.1%
繊維事業	161	155	▲6	▲3.7%
その他	0	0	▲0	▲35.2%
営業利益	15	▲18	▲33	-
高分子事業	23	1	▲22	▲95.9%
機能資材事業	1	▲14	▲16	-
繊維事業	▲9	▲5	+5	-
その他	▲0	▲0	▲0	-

※2024年3月期より一部の連結子会社のセグメント変更を行っております。
2023年3月期の数値は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

金額単位：億円

	2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	増減
売上高	252	260	+8
フィルム	171	169	▲2
樹脂	63	63	▲0
他	18	28	+10
営業利益	23	1	▲22



食品包装、電子材料用途の販売量減少の影響で大幅減益

フィルム 包装分野

食品包装の需要が戻らず、サプライチェーン内での在庫調整が長期化し販売減。
東南アジアにおいては、中国等の競合品の流入により販売競争が激化。販売単価下落を招いた。
ハイバリアフィルム「エンブレムHG」の販売は好調。

工業分野

電気電子・半導体用途の販売が低迷。汎用品だけでなく、離型フィルム「ユニピール」、高耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」等の高付加価値品の販売も減少した。

樹脂

エンジニアリングプラスチック

自動車用途は底を打ったものの、その他の幅広い用途で販売が減少。
世界的な景況感悪化の影響を受けた。

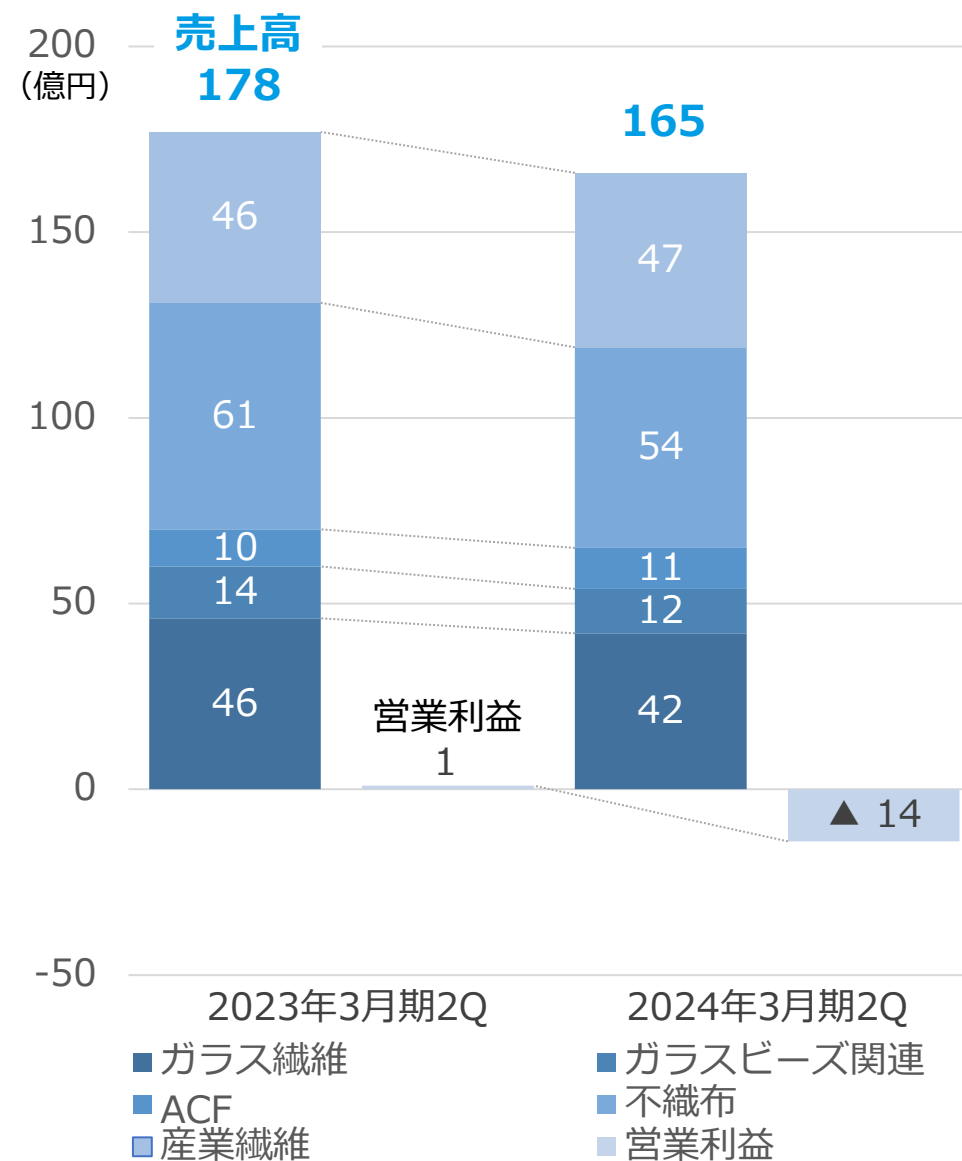
機能樹脂

電子部品用途を中心に販売が減少した。



金額単位：億円

	2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	増減
売上高	178	165	▲13
ガラス繊維	46	42	▲4
ガラスビーズ	14	12	▲2
活性炭繊維 (ACF)	10	11	+0
不織布	61	54	▲7
産業繊維	46	47	+0
営業利益	1	▲14	▲16



電気電子用途の市況が回復せず、関連資材の販売が減少。

ガラス繊維

産業資材分野

テント、シート等の建築用途の販売が期末に停滞したが、全般的に堅調な販売状況。

電子材料分野

前期後半から続く半導体の市況悪化の影響を大きく受け、大幅な販売減。自社工場の稼働が落ち、収益にも大きなマイナス影響を受けた。

ガラスビーズ

道路用途は天候不順を背景とした道路工事件数減少の影響、工業用途、反射材用途は市況悪化に伴うエンドユーザーでの需要減少の影響を受けた。

活性炭繊維 (ACF)

浄水器用途は国内の販売はやや減少したが海外向けは堅調。
電気電子用途は、ユーザーの工場稼働低下の影響で販売が減少。
空気浄化用途は、主に海外向けで販売増。



活性炭フィルター

不織布は幅広い用途での需要減の影響が大きい。 産業繊維はポリエステル短繊維の販売が堅調で前年並の売上高確保。

不織布

土木等のインフラ用途の販売は伸長。
フィルター、スキンケア用途など、生活資材用途全般で販売が低調。
第一次産業用途の需要減少もあり、全体の販売量が減少。

産業繊維

ポリエステル高強力繊維は販売を伸ばすことができなかったが、
ポリエステル短繊維はフィルター向け等の販売が堅調。
全体では前年並の売上高となった。

ポリエステル 資材全般

ポリエステル原料高止まりの影響が大きく、価格改定ではカバーできず、
両事業の収益性が悪化。



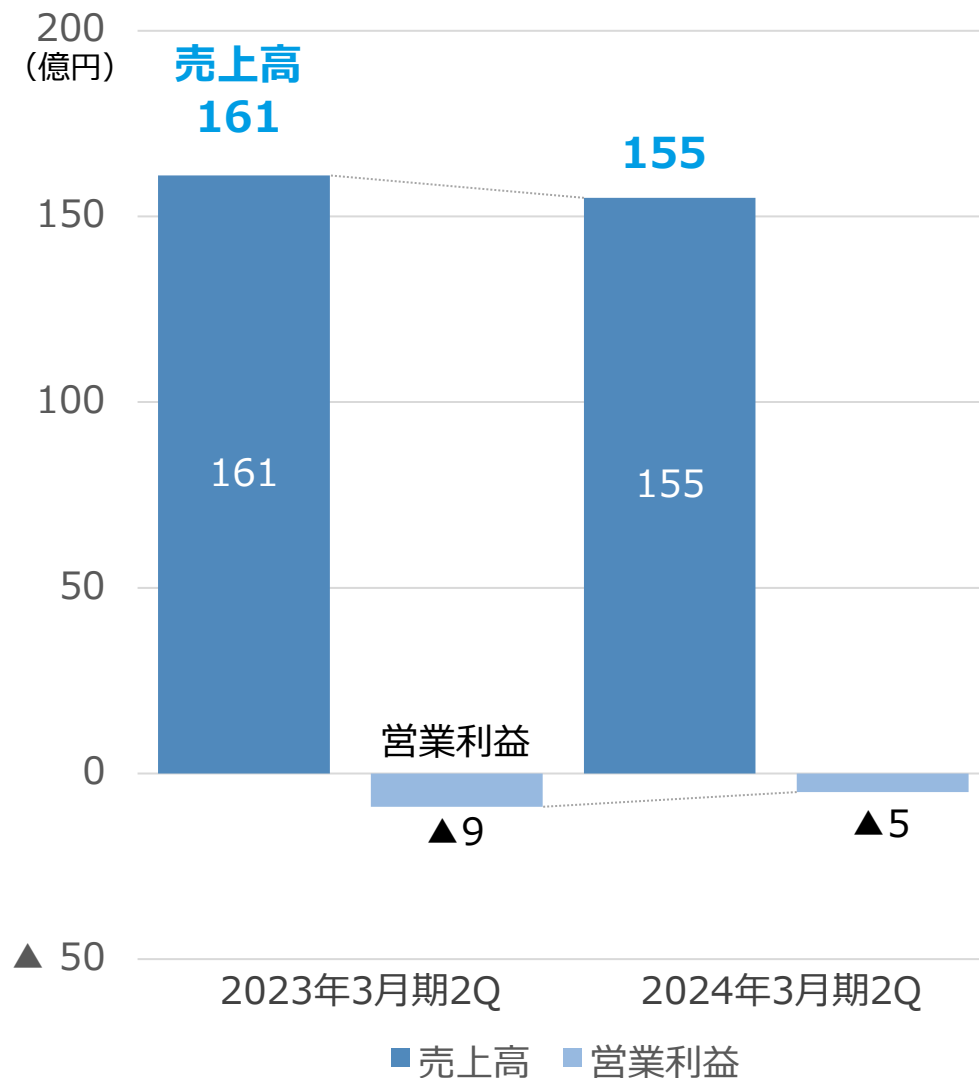
金額単位：億円		2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	増減
売上高		161	155	▲6
	衣料繊維・他	161	155	▲6
営業利益		▲9	▲5	+5

衣料分野の販売は概ね堅調。価格改定とコストダウンの効果により採算改善、営業赤字を大幅に縮小。

衣料繊維・他

ユニフォームの販売が回復。サステナブル繊維（一般衣料、スポーツ、寝装など）は堅調も、産業資材とグローバル販売が減少し、全体で減収となった。

先期から取り組んできた価格改定の効果が発現。販管費などのコスト削減の効果と合わせ、赤字幅を大幅縮小。



	2023年 3月期実績	2024年 3月期予想	前期比 増減	2023年8月 公表値	前回公表 との差異
(金額単位：億円)					
売上高	1,179	1,200	+21	1,250	▲50
営業利益	13	▲24	▲37	13	▲37
経常利益	11	▲14	▲25	8	▲22
親会社株主に帰属する 当期純利益	1	▲22	▲23	1	▲23

(金額単位：億円)	売上高			営業利益		
	2023年 3月期実績	2024年 3月期予想	増減	2023年 3月期実績	2024年 3月期予想	増減
高分子	500	525	+25	33	6	▲27
機能資材	344	345	+1	▲5	▲23	▲18
繊維	335	330	▲5	▲14	▲6	+8
その他	1	0	▲1	▲1	▲1	▲0
合計	1,179	1,200	+21	13	▲24	▲37

※2024年3月期より一部の連結子会社のセグメント変更を行っております。
2023年3月期の数値は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

高分子

食品包装用途においては、物価高を背景に消費マインドが停滞しており、当初予想より回復が遅れている。価格改定と高付加価値品の販売強化で収益回復を目指す。自動車用途については、回復が素材レベルまで波及すると見込まれる。電気電子用途については最終製品の需要回復に期待。

機能資材

半導体市況は底を打ったとみられるが、回復には時間を要する見込み。生活資材用途は引き続き厳しい市況が続くと見込まれる。産業資材は全般的に堅調な需要が続くと見込んでいる。

繊維

衣料繊維の需要は引き続き回復傾向と見込まれる。引き続き価格改定の実施や不採算事業の見直し、構造改善を実行し、さらなる採算改善を図る。サステナブル素材・機能性素材の展開を加速し、グローバル生産体制やサプライチェーンの強化により、赤字縮小を目指す。

ご注意

**本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、
本資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて作成したものであり、
実際の業績等は、今後の種々の要因によって、
本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。**